

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570201073		
法人名	医療法人社団 泉仁会		
事業所名	グループホーム めくもりの家		
所在地	宇部市大字木田中山田20-40		
自己評価作成日	平成26年7月14日	評価結果市町受理日	平成27年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日は、施設内を散歩・また、年に3度近くのデパートに家族とともに外食と買い物に出掛けている。地域とのふれあいの一環として保育園児とバス遠足に出かけている。一人ひとりにあった役割を見つけ出し、職員と共に日々の生活を感じてもらえるように職員全員で取り組んでいる。
季節事の行事・外出等で利用者様に目と肌で季節を感じていただけるように支援している。
三度の食事は手作りで、匂いや音で五感を刺激し食欲を増進していただき、準備・後片付け等利用者様と一緒にやっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の接遇研修を受講されたり、管理者と接遇委員を中心に全職員が挨拶や言葉づかい、服装、身だしなみに配慮されて、利用者の人格や意思を尊重された言葉かけや対応を徹底しておられます。利用者の好みを聞かれて献立を立てられ、三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者は、食材の買い物や野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、後片付けなど、一人ひとりが出来ることを職員と一緒にされています。利用者と職員は、同じテーブルを囲まれて会話をしながら、同じものを楽しんで食べておられます。誕生会や季節の行事食、おやつづくり、保存食づくり、弁当持参での戸外での花見など、利用者が食事を楽しむことができるようにいろいろ工夫をしておられます。家事全般にわたり出来ることを利用者と職員と一緒に和気あいあいとされており、「めくもりのある家庭的な雰囲気の中で安心して暮らしの提供」という理念に沿った支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にあるぬくもりのある家庭的雰囲気の中で安心した暮らしの提供、一人ひとりに役割を持ってもらい日々の生活をイキイキと過ごしてもらえるよう職員は理念を共有し日々実践している	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示し、月1回のミーティング時に職員全員で唱和をして共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ごとの催し物どんど焼き・夏祭り等の参加・文化祭への作品出展・保育園児とのバス遠足で交流を深めているが今までは日常的とは言えないが、地域での参加は積極的に行っていきたい	利用者は地域のどんど焼きや夏祭りに出かけ、地域の文化祭には習字や絵手紙を出展し、餅まきの餅を丸める手伝いをしている。地元の保育園児との年1回のバス旅行で交流している。事業所では年2回(1月、8月)、「ぬくもり喫茶」を開いて法人内各施設利用者や職員等の来訪者に、ぜんざいや白玉団子、コーヒーなどを振舞っている。法人内の地蔵祭り参拝者、絵手紙のボランティアの来訪者の他、3か月に1度は地域のスーパーに買物に出かけて、地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行のホーム便りを併設病院配布。また、地域支援センターの手助けにて各支援センターにも配布してもらい認知症を地域の方に理解してもらえるよう努めている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティング時に自己評価・外部評価を実施する意義を説明し、職員一人ひとりに評価表を配布し記入の後読み合わせを行い検討し問題点があれば、改善に向けて話し合う	管理者は評価の意義を説明し、職員全員が自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、各項目毎にミーティングで話し合い、まとめている。評価を通して職員のサービスの質の標準化への取り組みや重度化への対応、応急手当や初期対応の訓練の実施等、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、市担当者また、利用者の家族・地域の方の参加にて行事報告や防災・災害時の対応を話し合い意見を交わし報告者にて全職員が周知しサービス向上に活かしている	2か月に1度、開催している。利用者の状況や事業報告、行事予定、避難訓練、自己評価および外部評価結果等の報告を行い、毎回、テーマを決めて(認知症について、利用者の高齢化、重症化について、他のグループホームの現状等)情報提供をした後に意見交換をしている。防災対策や災害訓練についての意見があり、サービス向上に活かすこととしている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課また併設の地域連携室支援センターとの情報交換を行い相談やアドバイスを受けている	市の担当課とは運営推進会議時や電話での情報交換、市内のグループホームの実情把握、事例相談を行い、助言を受けるなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議時や直接出向いて事業所だよりの配布や事例相談をしているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修また、ミーティング時に話し合い全職員理解しているが、以前徘徊し非常口より離脱された利用者がいて場所柄日中あまり人目が無いため家族の同意を得て玄関の内戸に施錠している。その利用者が外出や散歩時には解錠している。	マニュアルを基に研修を行い、ミーティング時に話し合い、職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。外出したい利用者とは一緒に出かけたり、気分転換をはかるなどして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。スピーチロックについては、気がついた時には管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者第一で考え、その人にとって苦痛ではないか？良い方法をカンファレンスやミーティングにて話し合っている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を利用されていた利用者がおられたが、今はおられず理解している職員も少ない 今後の為にも学ぶ機会が必要と思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時書類や文書にて説明し、理解してもらっている。また、疑問や問題点があればその都度改正し了解を得ている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付を明確にしている。 また、家族の方とのコミュニケーションを大事にし話しやすい環境作りに努めている	相談、苦情の窓口、受付担当者、外部機関等、苦情受付体制を明示し、契約時に家族に説明している。年1回の家族会、運営推進会議出席時、事業所行事参加時、面会時、介護計画作成時等に家族から意見や要望を聞いている。普段から家族の面会が多くあり、面会時には利用者の日々の状況を説明し家族から意見を出してもらえつるよに配慮している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングでモニタリングを行い各自が何でも言いやすい環境を作っている また、カンファレンスノートを作り気付いたことはすぐに書き、皆で話し合う様になっている	月1回のミーティング時に職員の意見や提案を機会を設けている他、カンファレンスノートに意見が書けるようにしている。管理者は日頃から、sy区員に声かけを市、意見が言いやすいように配慮している。入浴時の安全のための脱衣場の手すり増設や2人制での入浴介助、職員の実情を踏まえた勤務変更等、職員の意見を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事前に職員一人ひとりの希望休日を聴いて勤務表を作成している。 また、急遽の用事でも、各自での勤務交代を行っている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修や院外の研修に皆が積極的に参加している また勉強したい内容があればテーマを決めて勉強会を行う	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて受講の機会を提供している。法人研修は研修委員会を通して毎月1回、計画的に実施(感染予防、医療安全、腰痛予防、ゲートキーパーなど)し、希望する職員が出席している。内部研修は、外部研修や法人研修の報告、職員の希望するテーマ(虐待防止、感染症等)で、月1回実施している。	・研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している研修や行事にも参加し、交流を深め他施設のいい所を取り入れている。 2ヶ月に1回行っている運営推進会議にも参加してもらっている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の方と日頃からコミュニケーションを図り、生活歴やニーズを把握した上で望まれている支援を行えるよう安心できる関係づくりに努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方と共に援助の関係が築けるよう不安なことや要望に出来る限り耳を傾け話しやすい姿勢で対応している		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人にとって一番必要とする支援は何かを本人・家族を交え話し合い必要であれば他のサービスとも連携を取れるようにしている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る力をそれぞれ発揮できるよう役割を持ってもらい、掃除・食前、食後の手伝いなど一緒に行い共同生活の中で信頼し合える関係づくりに努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆が一番だと家族の方に伝えた上で誕生日や行事・外出・外泊などの積極的な参加や協力をお願いし共に支え合う関係を築いている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域行事等に出掛け、関係が途切れないよう努めている また、年賀状の支援や知人・友人などの面会などいつでも来て頂けるようにしている	職場の同僚や趣味仲間、近所の人、親戚の人、家族の来訪がある他、友人や家族との関係が途切れないように電話や年賀状の支援をしている。馴染みのスーパーでの買い物やお地藏様にお参りをする他、家族の協力を得て、墓参、寺参り、結婚式や法事への参加、外泊、自宅の仏様を拝みに出かけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう食事の席等工夫している。また、気の合わない利用者同士に関しては職員が間に入り関わりが持てるよう支援をしている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても出来る限りの対応、相談には応じている。入院中の際はお見舞いへ行き、今までの関係を保ち支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートを活用し、家族や本人の希望・意向に添えるよう努めている。困難な場合は表情・言葉・行動などから気持ちを読み取り、皆と話し合いながら支援している	入居時のアセスメントでは「私の姿と気持ちシート」を活用して思いや意向の把握に努めている。入居後は日常の関わり(入浴時や行事、レクリエーションなどに参加時等)の中での、利用者の行動や表情、会話をケース記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを家族に記入してもらい、プライバシーに配慮しながら情報収集を行っている また、元サービス提供者からの情報等も活用している		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況やバイタル・食事・水分量・排泄面・入浴・服薬チェック等ケース記録や申し送り等で心身の状態・現状の把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティング時にモニタリングを行い記録している。また、毎日サービス実施チェックを行い変わったことがあれば備考欄に記入し介護計画に反映させている。意見やアイデアがあればカンファレンス記録に記入し現状に即したケアに努めている	計画作成担当者を中心に、ケアカンファレンスを毎月1回開催し、利用者や家族の思いや意向、かかりつけ医や訪問看護師の意見を参考にして、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。モニタリングを月1回実施し、6か月毎の計画の見直しや、要望や状況に変化があればその都度話し合い、見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には日々の様子やケアの実践・体調面等が記録され申し送り等で情報を共有している		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からのニーズがあれば管理者に指示を仰ぎながら柔軟な支援やサービスの多機能化に応じることが出来るよう取り組んでいる		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事を把握し少人数でも参加できるよう努めている。安全な暮らしが送れるよう地域にある消防署による避難訓練も行っている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時ご家族に医療連携の説明をし、併設の病院の協力を得ている。毎月の定期受診を受け、特変のある時に訪看に連絡や臨時受診等適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の納得を得て全員が事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の定期受診の他、夜間や緊急時にも対応している。他医療機関や他科受診はケース記録を持参して家族または職員が受診に同伴し、受診結果は家族と情報を共有している。訪問看護師には健康観察や応急処置を受けて個々の利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携をしており、毎週1回の訪問による健康観察がある 24時間相談体制も整っている 排泄表に健康状態や気づきを記入して職員全員で情報を共有し個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には管理者や職員が付き添いサマリによる情報提供や情報交換をしている 緊急時にもいち早く対応できる 入院時には必ず面会に行き状態確認を行い情報収集に努め、早期退院に繋ぐことが出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて担当医とのインフォームドコンセントを行っている。今後の方針などは家族の希望に添えるようミーティングやケアカンファレンス等で話し合いチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応にかかる指針」を基に契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から話し合いを行い、利用者や家族の意向を尊重した上でかかりつけ医と相談し、その結果に応じた方針を全員で共有し支援に努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告・事故報告書などを活用し一人ひとりの状況に応じた事故防止に努め、職員全員が危機意識を持ち情報を共有している。緊急時のマニュアルや緊急連絡網がある。訓練は定期的ではないが、訪問看護師より表皮剥離・水虫の手当・病変時の見分け方等指導を受け身につけて全職員に分かりやすく書類に残すようにしている。	発生した場合には、その都度、ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、ミーティングで共有して、一人ひとりの事故防止に努めている。消防署が実施する救急救命法は全員が受講している。半年に一度は訪問看護師の指導による応急手当や初期対応の訓練を実施しているが、実践力を身に付けるまでには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練や独自に4ヶ月に1回の訓練を行い基本的な対応ができるようにしている 災害時には併設病院からの応援や施設職員からの応援を仰げるよう緊急連絡網があり協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回、夜間の火災、風水害を想定した法人の総合訓練に利用者と一緒に参加している他、事業所で年3回、通報訓練や避難訓練、避難経路の確認を利用者と一緒に実施している。法人の併設施設や病院、地域の消防団との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格・誇りを傷つけないように気をつけている。排泄時や更衣の際には特に声掛けに気をつけている	法人の接遇研修で学んだり、事業所内に接遇委員を配置して、2ヶ月ごとに接遇内容の報告を行い、利用者に対して、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。職員は挨拶や言葉づかい、服装に気をつけて利用者を「自分の親」という気持ちで接している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、ホームでの関わりやご家族より情報収集し自己決定出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴など一日の流れは大体決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、本人の希望に添った支援が出来るよう配慮に努めている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服を本人と一緒に選びおしゃれができるよう支援している 出張美容も活用して身だしなみの支援をしている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・盛りつけ配膳などその人の力量に合わせ一緒に行う	利用者の好みを聞いて献立を立て、家族からの旬の野菜の差し入れや新鮮な食材を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、食材の買物や野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、お盆拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで同じものを話を弾ませながら食べている。季節の行事食(おせち料理、おひな様寿司など)や手づくりおやつ(桜餅、柏餅、よもぎ餅、月見団子)、手づくり保存食(漬物、キムチ、梅ジュース、甘露煮)、誕生日食(おはぎ、赤飯)などの他、弁当を持って戸外で花見をするなど食事が楽しみなものになるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を使った献立表を作成し、バランスよく摂取できるよう工夫している。 一日の水分量をケース記録に記録して一人ひとりの状態に応じた支援をしている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、舌苔磨きと見守りをしている 残菌のある利用者は月1回歯科受診して口腔内のチェックをしてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握する為排泄表を活用し、時間を見計らって声かけやトイレ誘導を行っており自立に向けた支援を行っている 布パンツ・紙パンツ・パットの利用についても個々に対応している	利用者2名は自立しており、職員が見守りを行っている。介助の必要な利用者は排泄チェック表を活用してパターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、水分補給や繊維の多い食事・散歩・体操等を行い便秘予防に取り組んでいる。排便困難者には冷牛乳やオリゴ糖で対応してなるべく自然排便を心掛けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応時間帯は決まっているが一人ひとりの希望に合わせて臨機応変に対応している。本人の拒否や体調に合わせてシャワー浴・清拭などを行い清潔保持に努めている。また、足浴で白癬菌感染の治療や血行促進・気分転換を目指した支援をしている	入浴は毎日14時から16時までの間可能で、利用者の希望にそった時間や状態に合わせて2人体制での入浴支援を行うなど、不安なくゆったりと入浴できるように支援している。柚子や菖蒲湯にして季節感を味わってもらっている。利用者の状態に合わせてシャワー浴や清拭、足浴、部分浴を行い、個々に合った入浴支援をしている。毎日、利用者全員に白癬菌感染予防のための足浴を実施している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しゆっくり休息できるよう支援をしている。安心して気持ちよく眠れるよう季節にあった寝具の調節や寝具類の定期的な洗濯、また汚染時には随時洗濯して常に清潔を保ち、気持ちよく眠れるよう支援している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方個人ファイルに綴じてある。また、全職員がすぐ分かるように投薬内容が事務所に貼ってある。毎日の与薬は2重3重にチェックを行い誤薬が無いように努めている。副作用等の症状が現れた場合、訪看に連絡し指示を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝い・洗濯干し・洗濯たたみ・花の水やり・園芸・縫い物・工作・活け花等日常生活における役割が持てるよう支援している。役割を持ってない利用者には職員と一緒にすることで少しでも達成感が持てるように支援している	テレビやDVD(水戸黄門、昭和の歌謡曲)の視聴、新聞、雑誌を読む、ラジオ体操、歌を歌う、しりとり、カルタ、習字、絵手紙、紙細工、壁面飾りやカレンダーづくり、お地藏様参り、おしゃべり、昼寝、日帰り旅行、野菜の下ごしらえ、梅ジュースづくり、よもぎ餅づくり、お盆拭き、盛り付け、配膳、後片付け、買物、外出、掃除、生け花、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花の水やり、園芸(朝顔植え)、縫物(ほころびを直す)など、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って戸外に出掛けられるよう支援しており、年間行事として初詣、花見、つつじ観賞、菖蒲観賞等季節に応じた外出支援を行っている。その他にもショッピングや地域のお祭りにも参加をし外出の機会が増えるよう支援をしている また、家族の協力を得て墓参り・外食などにも出掛けている。	周辺の散歩や買物、地域行事への参加、季節の花見(桜、つつじ、紫陽花、菖蒲)、ドライブ(江汐公園、常盤公園、丸山ダム)、初詣に出かけている。個別支援では利用者の希望を聞いて、地域のマラソンの応援やどんど焼き、雛茶会に出かけている他、家族の協力を得て、墓参、外食、自宅へ帰るなど、外出ができるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行いドライブを兼ねて買い物に出掛け、希望があれば嗜好品などを預かり金の中から買ったり、外食やショッピングに出掛けた際には本人の希望があれば一緒に買い物を楽しんでいる		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をすることは出来る人がいない。しかし本人の要望があれば、職員が電話をかけて会話を出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や中庭に季節の花や野菜を植えて世話をし、収穫を愉しんでいる リビングとキッチンがオープンスペースとなっており利用者様と一緒に食事の準備や片付けを行っている	リビングに入ると正面に総ガラスの大きな窓が広がり、遠くの間々や緑の樹木を眺めることができる。広いスペースの中央にはアイランドキッチンがあり、調理をする姿が見えたり音や匂いがして生活感がある。テレビの前にはソファを配置し、畳の間やリビングに続くウッドデッキもあり、利用者が思い思いの場所ですくろぐことができるように工夫している。室内には季節の花を生け、壁面には利用者の作品である習字や絵手紙を飾り、温度、湿度、換気に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテレビ前にソファを置き気の合う利用者同士で会話できるようになっている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族・本人と話し合い今までの生活で使用していた物を持参してもらい、使い慣れた物の中で生活できるよう工夫している	テレビや時計、小タンス、衣類、椅子、趣味の道具など使い慣れたものを持ち込み、自作品のカレンダーや家族からの飾り物、家族写真、リースなど大切なものや好みのものを飾り、本人が安心して過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口にネームプレートを付けたり混乱のある方には、家族の了解を得て写真を貼ったりと安全な環境作りを工夫している		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームぬくもりの家

作成日: 平成 26年 12月 22日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・運営推進会議参加の地域メンバーの拡大	・自治会長、民生委員、消防関係と、地域で活動されている方々の運営推進会議への参加。	地域行事、市の委託事業等の参加にて交流をもつ。地域の方々と話をしグループホームを知ってもらい自治会長、民生委員、地域住民の方々の推進会議への参加を呼びかけていきたい。	1年
2	9	・研修の充実	・院内研修全職員参加。院外研修、一人最低一回の参加。	勤務体制を整え、全職員が研修に参加出来るようにする。職員一人ひとりが積極的に研修をうける。又研修参加後必ず伝達を行う等。	1年
3	15	・応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	・全職員の定期的訓練の実施	ヒヤリハット、事故報告書が出るたび、全職員で話し合いを行い今後の対応に生かすようにしている。応急手当や初期対応のしかたを訪問看護で学びミーティング時に全職員で確認しあい実践してみる。今後も継続し行う。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。